

河川・用排水路の変遷からみた「水郷こしがや」の地域形成に関する研究
—(その2) 明治期にみる水郷としての地域アイデンティティ—

A Study on the Development Process through the River History in Koshigaya
-(Part2) Regional Identity of Koshigaya in Meiji era-

馬上和祥¹, 横内憲久², 岡田智秀³, 押田佳子³, 増倉直樹⁴

Kazuyoshi Magami¹, Norihisa Yokouchi², Tomohide Okada³, Keiko Oshida³, *Naoki Masukura⁴

Abstract: The purpose of this research is to clarify the history about the river in Koshigaya. Therefore, the items mentioned about the river of the history book which were analyzed the area. As results that: 1, There was a strong connection concerning the aqueous. 2, The sluice and the siphon culvert were important as a regional resource. 3, There was interests to the wind of the river.

1. 背景及び目的—本稿では、筆者らの先行研究^[1]より捉えてきた埼玉県越谷市の近世における「水郷」としての特徴をふまえ、政府の変化によって地域の状況が大きく変化しつつも近世の生活様式が残存する明治期に着目し、人々の暮らしの実情をふまえた地域形成過程の分析を通じて、当時の水郷としての地域アイデンティティを導き出すことを目的とする。

2. 調査方法—本稿では、先行研究と同様に、文献調査により河川・用排水路に関する事象を抽出し、生活実態や観光に関する事象も捉え、その相互関係から本市の水郷としての特徴を考察する (Table 1)。

3. 結果及び考察

(1) 政策変化と水利組合—大政奉還により中央集権体制が敷かれると、明治政府は地租改正や町村編成など、地方自治を推進する一環として、明治6年に河川・用排水路に関する工費の民費負担を命じた。急な政策転換の処置として、早期移行が困難な地域には特例が認められたものの、多くの河川が集流する越谷地域ではその資金確保が深刻な問題となった。これに関し、地域最大の用水であり、日本三大用水としても知られる葛西用水は、特例の期日を待たずして明治13年に「葛西用水連合集会」を結成し、流域での民費の調達法や支出法を定め、積極的な自治を展開した。その後、その他の用水も明治20年までには「水利土功会」が結成され、市内の主要な用水の自治体制が整っていった。これらの水利土功会は、明治30年の規約の改正により、それぞれ「普通水利組合」に改組され、会議評決やその管理が選挙で選ばれた議長に一任されるようになり、用益者や費用負担者の発言権が強化されるなど、逐次

Table1. The method of study.

調査方法	文献調査
調査期間	2012年6月1日~2012年9月25日
調査対象	・越谷市史・埼玉東部今昔物語・越谷郷土史研究会研究報告
調査内容	・越谷の地域形成史・河川用排水路の変化・暮らしの様子・図版・写真収集

改正や規約の充実を図ることで、長期にわたってその機能が存続した。このように、明治期では江戸期のような国家レベルの河川の付替えではなく、地元組織の活動によって治水と利水が守られていたことから、水にまつわる強い地縁が醸成されていったと考えられる。

(2) 農家の暮らしと水にまつわる騒乱—水利組合により管理体制が整っていく一方で、数年に一度発生する大洪水に加え、宿駅制の廃止による宿場の困窮や、御猟場指定による作物被害などもあり、当時の地域状況は決して良くはなかった。中でも、平坦地であった越谷において、取水と排水を巡って上流と下流との争いは長年の根深い問題であった。特徴的な対立として、古くから瓦曽根溜井では「竹洗い堰」という洪水時に自



Figure1. Koshigaya city map of the Meiji era. (This is original table by authors)

1 : 日大理工・院・不動産 2 : 日大理工・教員・建築 3 : 日大理工・教員・交通 4 : 日大理工・学部・交通

Table2. The history of the Meiji era in Koshigaya^{[2] [3] [4] [5]} (This is original table by authors)

西暦	年号	政策・社会情勢	災害	河川整備	生活	耕地整理	交通	観光
1868	明治 1							
1869	明治 2	関所撤廃					交通の自由が拡大	
1870	明治 3							文人 成島柳北 越谷来訪
1871	明治 4							
1872	明治 5	伝馬制廃止						
1873	明治 6	地租改正		工費の民費負担	耕作の自由が保証され生産力向上			
1874	明治 7							
1875	明治 8							
1876	明治 9							
1877	明治 10							
1878	明治 11							
1879	明治 12							
1880	明治 13							
1881	明治 14		洪水					
1882	明治 15							
1883	明治 16							
1884	明治 17							
1885	明治 18	水利士功会規制の発布	洪水					
1886	明治 19							
1887	明治 20							
1888	明治 21							
1889	明治 22							
1890	明治 23	府県制・郡制公布	洪水					
1891	明治 24							
1892	明治 25							
1893	明治 26							
1894	明治 27	日清戦争						
1895	明治 28							
1896	明治 29	河川法制定	洪水					
1897	明治 30	規約の改正						
1898	明治 31							
1899	明治 32	耕地整理法を公布						
1900	明治 33							
1901	明治 34							
1902	明治 35		洪水					
1903	明治 36							
1904	明治 37	日露戦争						
1905	明治 38							
1906	明治 39							
1907	明治 40		洪水					
1908	明治 41							
1909	明治 42							
1910	明治 43		洪水					
1911	明治 44							
1912	明治 45							

壊する独自の堰が設けられていたが、年数回起こる大水の度にその修復を巡って上流と下流で争いが起きた。さらに、明治 40 年には新方領の耕地整理が計画されると、千間堀の排水能力の向上に関する工事には下流の増林村から反対があり、また、末田須賀溜井からの利水の確保には水利組合から大きな反対があるなど、越谷地域は苦しい生活状況を打開すべく、治水と利水の争いを繰り返しながら発展していった様子が伺える。そして、これらの争いの中心にあった堰や伏越といった技術は、当地域の水にまつわる試行錯誤の歴史を象徴するものであり、現在もなおその機能を果たしていることから、本市の重要な地域資源であるといえる。

(3) 観光形態からみる水郷こしがや—地域として疲弊し、争いが多発した混沌の時代の中で、越谷の風景は多くの文人墨客により評価され、詩や絵画などから当時の暮らしや風情を見て取ることができる。明治初頭に関所が撤廃され、交通の自由が拡大されると、人力車や乗合馬車を用いて越谷の地に多くの観光客が訪れるようになる。越谷は江戸時代より桃の名所として名を馳せており、それらの分布をみると、元荒川や古利根川の屈曲部と、河道跡に集中していることがわかる。

これは、河川の蛇行によって形成された土地で自然堤防が発達しており、地質が他と異なることに起因していると考えられる。加えて、文人墨客たちも街道から川沿い(自然堤防)を周遊し、河川の蛇行する様相や、川沿いに根付く人々の生活景にいたく感動していることから、越谷において蛇行する河川とそれによって形成される独特の地形や植生、そこに根付く生活は「水郷こしがや」としての大きな特徴といえるだろう。

4. まとめ—以上、明治期における越谷地域の暮らしから「水郷こしがや」の地域的特徴を振り返ると、水利組合を中心に自治体制が構築されていく一方で、地区全体で生活困窮状態が続いていたため水利や土地所有権をめぐる争いが絶えず混沌としていたが、川沿いの風情は多くの人々に親しまれ、首都近郊の水郷地帯として広く知られ始めたことを捉えた。

なかでも、堰や伏越のような河川と用水の「結節点」と、独特の風景を形成した「屈曲部」は越谷の歴史や魅力が蓄積した特徴的な地点といえるだろう。

5. 参考文献—[1]馬上和祥ら:「河川・用排水路の変遷からみた「水郷こしがや」の地域形成に関する研究」,建築学会学術講演梗概集, pp. 377~378, 2012. 9 [2]越谷市役所:「越谷市史通史編(下)」,越谷市教育委員会,1977. 5. 25 [3]望月印刷株式会社:「埼玉東部今昔物語」,本間清利,1993. 10. 30 [4]越谷郷土史研究会:「越谷郷土史研究会研究報告」,越谷郷土史研究会,1972. 3~2009. 7 [5]奈良印刷所:「埼玉県新方領耕地整理竣工記念」,埼玉県新方領耕地整理組合,1918. 5